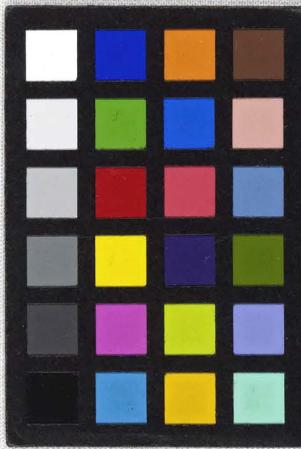


語燈錄

卷三





黒谷上人語燈錄卷第十三

狀欽沙門了惠集錄

和諧第二之三

當卷有四篇

九條殿下的小政前へ進む御返事第九
鎌倉の二位の禪庄へ進む御返事第十

要義問答第十一

大胡太郎へ川口す御返事第十二
九條殿下の小政所へ進む御返事第九

かく。まことに。すわけ。ほそ。御念佛
ゆゑ。不。内。ひらん。と。い。く。
の。内。小。往生の行。み。念佛。ゆゑ。
ま。少。そ。也。ゆ。ゆ。往生の本願の行。
り。之。餘行。ひ。真言止觀。の。た。さ。行
あり。こ。以。そ。餘地の本願。も。次。念佛
と。釋迦如來の付属。行。餘行。定。
散兩門の。先。て。次。行。ひ。ま。釋迦。上
と。

付屬。一。詰。と。又。念佛。六方。諸佛。證誠
の。行。也。餘行。ハ。顯密事理。の。底。今。之。總
て。有。諸佛。と。證誠。一。詰。次。行。ゆ
き。後。大。行。行。可。と。之。を。往生。の。内。に。
之。を。念佛。す。し。ま。此。中。み。く。作。也。
之。を。往生。れ。む。小。よ。き。人の。ゆ。と。あ。く。
餘の。真言止觀。の。行。小。す。う。り。や。と。ま。の。
川。さ。小。ゆ。と。念佛。ひ。う。し。す。ひ。さ。ま。先

多ひ草少くひをかほ餘行とへ籠
か奉釈小行がこましに。又釋尊の
付属小わらう行とへえひそら又諸佛
れ證誠小わらう行とへまくわだせて
いすゆ泥流の奉釈小まく。釋尊の付
属小まく諸佛の證誠小まく。いそくわ
うだくまく。いそくじとひまく、なまく
ほれほれほれほれ。会佛の行と信い。

多く往生せられまつて。やと幸して
ときし恵心の信都れ往生要集。いせの
業公佛とぞすくすく。おもむくのゆ
き。餘行とぞ失給く一向。会佛り
路経之。会佛小なり。一向。既て。会
佛。失て。紹平少く。じよし。三昧
發得。ノ。善導和尚。觀經疏。九。て。此
か。月。以。雙卷經。一向。專念元量壽

佛ニヨリ。皆アリ。一一向ノトウ。ニ向三
向。又封。ノリ。ノリ。ノリ。餘ノ物。とえ。ヒテ
ミシコのノム。ハ君達。リ。ヒ。ノリ。ハ
析。ハ。ノリ。ノリ。会佛。ハ。先。テ。紀事。テ。会
生。會。集。ノ。餘。ノ。ナ。ハ。モ。会佛。ハ。シ
滅。ノ。活。ノ。会佛。ト。ナ。シ。ノ。ア。モ。テ
作。ト。ナ。ガ。諸佛。ニ。塞。ヘ。天。元。の。權。護。三

經。ノ。現。テ。ノ。現。セ。後。生。ノ。ハ。リ。何。事。
ニ。シ。ミ。ス。ノ。ク。ハ。向。事。能。ノ。但。
会。佛。小。ノ。レ。ヒ。故。ノ。ノ。

鎌倉。ノ。二。位。の。禪。尼。一。進。す。四。返。半。奉。下。

功。徳。ハ。佛。ニ。ミ。サ。ハ。ノ。レ。ヒ。故。ノ。
又。有。惠。第。一。ノ。舍。利。弗。多。聞。第。一。ハ。阿。難。ニ。
念佛。の。功。徳。ハ。ア。リ。ノ。レ。ヒ。廣。大。菩。

根をくふゆと涼室ひんまつヰと
ゆきひつ涼室二月朔小月りとひ教
通分小じきえと津の教文へ朝
ノワラすせんそウル、震旦
アリトテ聖教ノムとテルモ年
なんす小半川くすくもひくひくと
ふく毛むけと利くらがやめ
アハ念佛と信セテムヒムヒムヒム

車ひのぬやれ入道川のとくに良ひ元智の
もれなくともう餘行といせを易いと会
もろとが活然房はすくらんとすばるがる
まきこもりたゞく。一、車小くひくの少
し念佛の経はもこり有智元智とえど
お説げじくらしゆく。一本願わぬ
詔。一切めぐらり。元智れまく。念佛と
願ふ。有智のたゞく。餘行と私共が事。

十方世界の衆生のたる者有智元智善
人惡人持戒破戒貴も賤也男も女もてども
うい佛在せれ衆生りい佛の滅後れ衆生
りい釋迦れ未法万年のらニ寶もふくせ
みわらの衆生もとく念佛もりて現
當ノ祈禱もひだり作もく善導和尚ハ沐浴
の化力少くとも一切衆生とわくしを浴て
一切聖教とんく専修念佛とくも

おもひらく一切衆生のまを方便の
時節末法小行たりて、まへ放しとし
て、元首ヒトノミのヒトノミ小まゝヒトノミ次ヒトノミう、ヒトノミ徐ヒトノミ危ヒトノミの
半死ヒンシとヒンシのヒンシてヒンシ何ヒナニ新ヒタチ善ヒツヂ學ヒツヂらん
そくヒツヂいとヒツヂ念佛ヒツヂのヒツヂ門ヒツヂとヒツヂ先ヒツヂひとに
いそく元首ヒトノミのヒトノミ小まゝヒトノミりて、有首ヒトノミのヒトノミ
て、生ヒツヂせヒツヂとヒツヂ身ヒツヂとヒツヂ心ヒツヂとヒツヂ人ヒツヂとヒツヂり
そくヒツヂハ孫ヒツヂ後ヒツヂのヒツヂ本領ヒツヂとヒツヂし、善ヒツヂ學ヒツヂらん

まふら。假行す。半行びて、妻と
不^ト事^ト方^ト便^トて、もとしてわ^トとうと。
ツ^トま^ト生^ト膏^ト障^ト堤^トの^トハ^ト頃^ト放^ト
と^ト毀^ト滅^トハ^ト流^ト論^トと^ト大^ト地^ト破^ト裂^トと^ト
超過^トと^ト之^ト守^トて、三途^トれ^ト身^トが^トま^ト人^ト半^ト
得^トく^トと^トと^ト終^トよ^ト文^トの^ト心^ト津^トと^ト
称^トい念佛^トと^ト行^トう^ト人^トを^トえて、毒^ト心^トと^ト
い^ト事^トと^トり^トて、後^ト方^ト便^ト

と。専修念佛の事と。かく。とて。やまとしほみひ。かく。かく。れ
かじ。かく。佛道の事と。かく。かく。斗て。
善根の事と。かく。輪燈の事と。
なり。かく。法流の事と。かく。かく。生
死と。かく。常住の事と。かく。生と。かく。
了の教法と。そ。で。や。う。け。そ。れ
の。小。う。り。て。ふ。く。三。點。の。小。さ。り。し。れ。

かく。人。が。大。地。微。塵。劫。と。かく。かく。
三。途。の。り。と。かく。ま。ん。事。行。と。かく。ま。ん。
かく。ま。ん。事。行。と。かく。ま。ん。事。行。と。かく。ま。ん。
ま。ん。人。が。か。り。ま。ん。事。行。と。かく。ま。ん。
の。而。人。が。ま。ん。小。う。り。て。専。修。佛。の。事。と。
と。かく。合。佛。往。生。と。かく。かく。不。善。と
ま。ん。人。が。よ。し。な。ま。ん。事。と。かく。ま。ん。
不。よ。そ。往。生。と。かく。往。生。時。以。て。お。物。

まひに三毛信重を念佛の事と見て、まひ
毛ら急いでて、ひかりと打てて、行
ふ事となんこやとハ・往福ヨリス・
とすとせんとえう易易して、いふ中と
うりんもくりが・寔改シテ、おゆうひに
信せざんとおほく、おけふ
ばらう不くし経を以て、さんで、元丈
のらうだく、もくもくが不信れ、
うらうだく、もくもくが不信れ、

生となりが過去の文母兄弟親類なりと
仰りて慈悲とだす。又念佛中
て極樂の上品上生(アソリ)て、さりとて
来る生れ小なりとて、謗諑不信の
毛じるんと、おもと(き)まじる

あひがゆの(ま)なり
一難行の人々、餘の功法と修業(せうぎ)
あひ脚成(あひきじゆ)て、下に名と(ま)いふ

之出一一向專從改立而往生也
之身也他人力を以てみらと近き事
能得せよせんと有りて之も也其の意
ト専修と云ふにひきしんは能縁也

一人の心室とぼくの佛とひき經と
僧と供養とんとくとくの心室とくとく
信とくとくとくとくの羅菩薩と

毛體書寫

三の世の、御心念佛の心を以て
佛心也。——經文も誦——書く。——
宴

はくからしも銀のくびりせんて
又後世のあらせはそひくらむ事
空むくせらう事 事修とくとく
あらせらう事

わざとさうして、何事か
一合併と申す事様に乃義の言ふ如く、

字とてひづるそり小一切ひだりて
也ふと領とてのゆは名号とまく
手かわせとてうすゆふゆかくま
もくく改定へ葉かくじ合併の約定
うり行住坐卧時處諸縁とえんと身口
の不淨とどもくらむ行持くじふ樂行社
生みかずはくくひやもくしもの中み
心絶えずしてトナリ第一の行持

尼。也。渾古。ト。ハ。カ。ハ。渾。行。法。ニ。
多。也。而。に。出。先。シ。ト。シ。居。い。つ。
御。モ。ナ。ス。第。経。リ。ト。シ。ニ。中。正。ミ。行。ジ。
望。次。行。身。モ。ニ。之。ニ。生。ニ。ノ。
ト。シ。ト。シ。ト。シ。ト。シ。ト。シ。ト。シ。ト。シ。
う。ハ。ス。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。
一。合。併。ノ。行。ト。信。セ。ム。今。行。ム。論。ト。又。
モ。ね。行。の。人。く。メ。レ。ヒ。ル。執。論。シ。す。

あふら小解異学の人とてお堂
より塔ゆきの重冠人
色打もせ事不便小引前人極樂と
称し念佛とよんといたとい早慶の
人なり三色文母師近下うなじ下
矢毛下今生の財寶のうりこし
うりとくの生れとあくもそく
も念佛とげんとくくもく

経のくみにゆる如來のみやりと
御行ゆき 釋迦如來滅後
れて次第小小引小引はりはりと
くねり 二首惠行りくとくとく
過少くとせうと八錄行の經教と
きとえと、いへんや錄のりの經教
をえらん人の首惠行りくとくと
くねりとくとくとくとくとくとく

聖教よりわが身をもんべし
少念佛と伝わる人多めのせ小運羅と
はうて地獄アハありて又地獄アハ
そでくよるべく人也たとひ千佛せよ
念佛アハ往生の業アハわざとす
絶えず信アハうふしざ釋迦アハ如來アハ
うえて恒河沙の佛アハ證誠アハ經書アハ
なりかむ行アハ先アハてらへアハ金剛アハ

利をかくして一向傳アハ悟アハ八方度改アハ
了く論アハ申さん人アハとぞくつ
おいてめてやさんゆきとくげきと
のりとく後アハ要文アハとくしてアリ
婆アハ妻アハ人アハ餘アハ淨土アハと称うん事アハ
うゆくして天アハ鳥アハとぞり定アハくま
木アハ木アハの木アハとぞくじとぞくま

一ノツル 次第に事候合併も現あらうと
なりりて、之を經の説くひと文ひの
人を専らお業と人みて、して、わ
たゞりまへどり、をうつすを參

らふ／＼

要義問答

第十一

は半小の身道のなれ事をもと
もりやげよとひくをひきし事

がけき四方小馳走も、衣食うらぎ
アヒニヨ身命とし、しゆ切だれ
わふらに、うれこすり、よほん若
そくさんぬうと、すとひせ、小そく
失れはんや、元常の御、人を自ら
多不ぞうり。うしの月日、うがうの時
み初さん、うちうるをい、次へ
ねうけよと、えうきううりをくじ

西へ六道生死の事と稱して、
提心天上にして、下に地獄、うつと
七色五衰退漫の如く人間は
皆國王の力がけて、天下とて、
生を病氣、愛好、雄者、慈善、會意、
事とねらふ事、すそい、のを
有らず、三惡ぬみ、追ひださし、行り
人有ん人、うるまく、うるまく、

人壽の生とけり、もひく、佛教。
うきのうき、生雄とくと、先き若経
間むき、ひいて、なり極苦かくとく。
やうよげ、よきうら、と小津、と左
右の、生雄とくと、アマモ、と右利と
えくしゆう事、元道、いとく、不謗
ト、ハムル人、事、いと、不り、在死にあり
て、ハムル、傷廻の業、ハムル、

半少くやひ

答 だよもよほりゆびと酒と云

て生來と云う人爲に佛道の因とあり

きを舊て物あらじいへんしてひ往生

十國ニヤム文めハ勝如聖人れ又母子

出家べ時不そこへ四十一妻二三十

三なり修行の傷と見て師ニシテ師

多ひる裏毛の毛へらす病患山城

す乍出家せもよしら寂上の善根

也こそへづどし釋迦如來當來導師

如意尊小付屬一筆すり破戒重過の

ヨリカなりこよと頭とて衣と

失蓋累とつまたらしものとふがち

小浦ニテ六行目とらむと之としと

破戒なりこんと三會得度かばたの

行りう經の文小在家の持戒と出家

破戒ハナツよりこそひよて後アフタの
そい佛流布ブダルブノ世エラじまく・生雄モウラ
道ミサニと一ヒコて解脱カツラク幢相トガタシマの衣カミと
行釋氏ケイセイシ小法コハツなりて佛流布ブダルブ修行モウジでさ
久もゆゑハラハラたゞの山サン入アリて、
仰アゲくして返カムめ免アマーと。

向アヒテて出家スルガなんうて、
とくに聖提セイチみシテ八輩ハチベイとぞいがむ

なんう、爲スルみシテおれいスル小コト称
ひらへき。

答安樂集アヒテ大宗教オウジョウジ二種ニシキ
乃勝法オシガ一ヒコ聖道セイドウ二ヒコ往生ワシヨウ淨土セイント也
極ヒトト土トトのなナふフて、心ハそ・佛果ブダガりシマ、
し聖道門セイドウモン也・諸法ツガの実シラフと觀タチて、鑑サザリ
をえんう・法華三昧ハツカミヘイと行スルて、六根ロクゴン清淨セイジョウ、
淨界セイケイもろ久モロク、密ミツの行法ウカルと即ミタマ。

又成佛さんと有りてうひ四道果^{シテ}
大義^ヒと明六通^トと称す。まふ難行道也。
生漏門^ヲアリ。川津^エモ^シム
カ。小多^シきより、往^ルも、佛^サウガ
シム行^ス也。不^可易行道^ヲ。生死^ト
無^カく、人^ハら^フ。は^シきりもア
セテ。

問^{ハシメテ}ハ^{シメテ}アリ。アリハ^{シメテ}モア

モ^シ淨土^ノ往生^ト。称^シム^シカ。ハレ
音安樂集^ニ。小^シ聖道^ノ一種^ハ下^ル時
謹^ヘ一^ツ。一^ツハ大聖^ト。ほふま^スる
不^可解^シ小^シニハ理^ハズ。アリ^ト。行^ス
利^ハク。ナ^シト。二^つアリ。大集月藏^{アリ}
經^ハ、アリ。未^ハ活^ハ時^ノ中^ハ、億^の前^ハ
生^ハ行^ス。ト^シ行^ス。ト^シ行^ス。ト^シ一人^ハ
有^カ物^ハ。アリ^ハ。不^可解^シ。未^ハ立^ハ置^ハセ^セ也。

さく津二ノ一門の。うりく。通入。まく
り也。まく。諸佛の大應。淨五小歸す
。すて。久遠。一形恩と。いはし。まく。
心絆。まく。法事と。りき。まく。法事
。心佛也。一切の。うりく。自無
。のそ。うりく。往生と。がく。是
。もくす。て。まく。人な。や。まく。永觀
。心。真言止觀八理。うりく。て。らと。ま
く。

さく。三論法相の道。す。うりく。まく
。心。す。なんぞ。小。観念。も。だ。そ
。約。法。も。り。種。そん。人。淨五。往生。
。まく。一切の。法門。と。も。や。そ。まく。を。説
。まく。まく。まく。まく。

向十方。小津。不。う。う。ま。と。う。你。まく
。卑。率。人。往生。と。你。人。金。不。ほ。ひ。まく。因

まく。まく。まく。

卷天名大師の如く諸教所言多在旅
陀故以西方而為一頃ニ又顯密の教法等
小色を絶極樂ばすも亦幸善稱計す
恵心の往生要集ニ十方に對して西方と
す久半率小對トツツ不以勝劣トツツ
難易相違の證據トツツりびひづる御御
えんせを易遊極樂トツツ太い縁トツツの御御
も有縁の教主也宿因れ少半軌の臣等

西方と称え易遊トツツべふと行ゆい
間ぬくふくひじきすりよ極樂と稱え
ゆきにこう作かし極樂ば称うんがふろ
きへ行くもくねくらむ

卷善摩釋トツツにて如く行五二種行
正行ニハ雜行心の中ふ五種なり一ハ
礼拜トツツ正行ニ云讀裏トツツ共養トツツの正行ニ云
讀誦トツツ正行四云補名トツツ正行五云觀察トツツ案

正行也。一、礼誦の正行。二、余禮とある。三、
かうりが、あらわしを餘礼して、餘礼をもす。
二、讀(裏)供養の正行。四、讀(裏)供養。五、
讀(裏)供養の餘の讀(裏)。六、讀(裏)供養の餘の讀(裏)。七、
讀(裏)供養の餘の讀(裏)。八、餘の讀(裏)。九、
讀(裏)供養の餘の讀(裏)。十、餘の讀(裏)。十一、
餘の讀(裏)。十二、餘の讀(裏)。十三、餘の讀(裏)。十四、
餘の讀(裏)。十五、餘の讀(裏)。十六、餘の讀(裏)。

の稱名とす。立觀密の正行。二、意
念觀密。三、立觀密。四、二報莊嚴等と觀
密。一、餘の觀密。二、立觀
密。三、正行。四、正行。五、文二行
と往生の正行。二、正行。三、正行。四、正行。五、正行。六、禮誦
等。七、餘の正行。八、餘の正行。九、
餘の正行。十、餘の正行。十一、餘の正行。
又釋て。二、自餘の修善。三、餘の善。

なつこ之公佛ノ事所一書
比杖より汝の身に津ち公佛の身也
之一向公佛ノ事ハトモを語シテ
問餘行修して往生を人手ひがく以是
をもと毛法華經又即往安樂世界
而亦法佛所之と密教ノ中にも波宣往生
ノ真言あり諸教の中ニ津工小往生之
ニ而力がますり又織ち中山ノ佛事
一ノ

アラニムニ法ノミヨ真セん教ノ修
印テヤヒテ往生極樂小廻向てハ佛事
カナリテトカツカツ往生ハ心也
アラニモ行持ノ又不れ川ノ鷲聞立
人アラニモ皆ウラ毛法華公佛ノ事物
ニ釋テシハラ多修せん小竹小竹

卷雙卷經小二車往生の葉ハミテ

一向傳念元量壽佛の經と觀元量壽
經かくの往生の行とあらゆる經と
ふたりに阿彌小付属一経三つある
たんりこの諸経にてのとくが多き
てよし元量壽佛の經は下さり也
善導觀經と釋ての経と法華兩門
の益はくと善導の佛の本願いと
は一向りと善導の名号が傳ひ
り

ゆきりこゝ不るも經の文にて見る
明く十方世界念佛の往生して死んで
構取てきて給ひすよしより善導釋
みの活く餘の雜業のとくびて死
抜れてと生滅も論じてと作餘り
死ぬよりとしまくとよけ次第
導き廻向するじもう一とおと
りの跡難の行ひたてとおと

也。したまは生寫集の序を以て密を
教法の文にあり。又より本理の葉因。
とれりし。利智精進の人のため
たまくをせず。帝の御の領魯の物
あふだ。やせんや。三の門。念佛の一
門。うりて。經論の要文。代わりし。
といはざる。従、修す。がまし。もく
むすめ。まことの體の證據。うまさば

久川。一。教代えよ。みわく。久様。と。う
き。せ。け。ら。く。小。争。生。死。ゆ。を。う。ま。く。事。
も。す。と。く。て。こ。と。他。力。の。ゆ。ほ。れ
本願。と。た。の。じ。也。先。禮。う。たり。く。い。い
あ。う。く。か。道。綽。ハ。聖。道。代。え。く。神。土。
久。門。一。不。若。辱。と。難。行。と。く。伏。く。而。
み。会。佛。と。三。昧。代。え。経。ひ。津。正。宗。の
祖。師。次。第。小。ち。い。を。や。う。く。而。代。

わ。朝小毛惠心永觀うんこ。自
宗他宗の公佛の一门をすら爲
て専雜二派の義。先くも小毛
モ津江の文不叶。而してはうんこ
一文即身得道の行徃生極樂。不
そほん毛の後半小毛はもやじ
作。とくにたゞくも宗こゆ半れ作。
善序の觀經の疏。般若經のこ
と觀經。觀佛三昧。とりて宗の公佛三昧
とりて宗こす。こよ。法華ハ真如
實相平等の妙理を觀て證。と云ふ
理。身小力品六根の位。毛。つゝ。之無を
りて宗こそ。又真言。即身成佛。と云
宗こそ。法花小毛。下。の功力。と云ふ

多經をかしらへてそに即往安樂ソウラク
云々即往卑寧ボウニン天上スカイよりはくハク便宜
の說也セイガ往生ワジシヨウとしゆくシユクひわくヒワク真言
又アリ法華念佛ホガツボムブ一イチなりて云ウタヘテ
あアリてアリ修ヒサシでドとト善道和尚センドウハサウエイ
維摩章ウムサウ詔オーラム淨土セント一門イモンづりてヅリテ
くりこのシニ一向イフウ念佛ボムブとト餘ヨリの
行ウカヒすス事モノなりてナリテとト

下淨土宗シナホウトウジウの祖師シロニシありけりアリケリ向モリに名
号カウと補シラフて餘業ヨリエイとトくクしてシテし
んらば棄スルバして專修センショウの一イチ行ウカヒを終シテ
こコしシたりタリ

問淨土の法門ホウモンがくくガククてテ川カワ

とト作ハセりリ

卷經カウキンの雙卷ソウカン觀元量毒カウモンリョウドク小阿旡陀經等コウミダ
之ノと淨土の部經ボウトウ文ムカシ菩薩導觀ボクサヅクエン

經疏六時禮讚觀念法門道綽の安
樂集。慈恩の西方要法懷感の群經論
台の十經論。朝の人師。又。惠心の往生要
集。大般涅槃の如く人の如くされやく。
之を一だかに。口とて。欲る色。而
して念佛す。せゆといん。小。は生たふ
事。うそい。まこと。

問ふど。ハ。能く。小。川。い。り。き。

益三心。徧具足。で。多劫修。ゆく。そ。の。心。こ。す。す
一。心。至。誠。心。二。心。深。心。三。心。迴。向。發。願。心。が。り。
一。心。至。誠。心。三。心。真。實。心。也。菩。導。釋。て
の。絃。り。至。心。が。眞。の。義。誠。心。が。實。の。義。
真。實。心。の。中。に。この。自。他。れ。依。正。二。報。と。て
い。も。く。と。業。り。修。て。こ。ろ。の。行。業。こ。う
な。く。次。真。實。が。り。し。斗。ふ。や。不。賢。善。精。進
の。相。と。現。て。内。小。虛。假。と。く。物。の。自。私

十二時ノ川ノ先ノ下ノにナまサ・ツノのサと

小サすシ・往アマ生リとシすシく
きケ内外ミナミ明アキラ闇アマガシとシえシてシ次シ真マサニ實ヒトツとシら

升アシゆシそシ・至アシタ誠マサニ心ハづシくシ二ツのシ深マツシ心ハよシる

すシ信アシとシ没アシ立アシーシてシすシ信アシとシよシ自身シシ

八ハ現アシ小シうシしシ漏アシ惡アシ生リ死アシのシ凡アシ丈アシ也アシ廣アシ劫アシ劫アシり

れシ川アシ流アシ川アシ流アシ轉アシ流アシ轉アシり

出アシ離アシのシ縁アシわシ幸アシ仰アシ文アシ沒アシ立アシーシてシすシ

く信アシセシモシ少シ行アシりシけ四十シ八シ願アシとシ
てシ完アシ生リとシ構アシ變アシーシてシうシたシいシたシ色アシ
いたシ、シのシ無アシ力アシ一シのシアシりシけのシうシ
生シすシとシ行アシ、シ你アシうシとシ行アシのシうシ
とシハシ信アシセシ、シ一シ切アシのシ智アシ者アシ百シ千シ万シ人アシ
利アシてシ經アシ論アシのシ證アシとシいシてシ一シ切アシのシ凡アシ丈アシ念アシ佛アシ
してシ生シすシすシ本アシとシえシすシこシもシ一シ念アシ
のシ證アシ退アシのシ山アシ下アシ、シうシ久シ多シうシくシ

之。たゞんじうじくこう爲れ。經論信であら
くわう。次だんじう信す。こう爲れ。經論ハ
あへらう。有縁の敵。ワ。信す。こう。ワ。有
縁の敵。ワ。コトの。經論。ハ。善。達。ノ。天
等。小通。一。て。三。け。主。の。觀經等。打。二。部。濁。惡
不善。ノ。元。史。の。下。先。小。主。終。一。ノ。の
經。と。之。え。終。一。ノ。少。封。核。レ。別。二。和。ウ。別
利益。レ。利。が。リ。ま。ま。み。み。み。み。み。

うちのゆすとえすまくまくの三
御幸なりはまく一そくを失ふるはまく
うそ失へどもまく退せむ事
たゞかうゆて深心也ニモ廻向發願
心ニシム一切の善根とまくくまし廻向三
歩往生極樂のゆらとめ建立真實れの
うち廻向一あじまくたりしどうとと
う心深信す。金剛のこころ

一切の異見異學。別行人等小動乱破壞す
経文し。まくへ行者。乃だ。ふ。一川のたと
つとまく外邪異見。難と。よ。で。ん。ん
わりく。西。小。じ。つ。て。百。里。十。里。と。まく
忽然。こ。ー。て。中。路。小。河。の。河。わ。ー。川。ハ
ん大の。日。み。あ。こ。わ。ー。川。ま。し。水。
日。き。だ。よ。け。り。不。久。く。い。わ。き。百。安。ふ
く。ー。て。う。こ。川。あ。こ。か。大。の。中。間。五。

川の白き道あり。ちうま四五すそりびふ。
舟。二十九日。の。一。より西の
岸。小。く。も。が。く。百。步。そ。れ。川の。彼
浪。文。過。一。て。道。び。か。と。と。火。船。又。ま。た
ア。く。通。び。ア。水。火。ち。い。ゆ。く。り。て。所
行。く。も。し。幸。け。ふ。う。人。も。と。立。癪。の
ひ。か。く。さ。う。小。い。く。う。人。う。く。と。群。
賊。恩。黙。だ。う。れ。人の。え。う。ぞ。く。と。入。て。

と。い。く。り。て。う。海。う。ん。三。す。ふ。の。人。死。と
む。往。く。だ。ら。じ。く。ア。く。西。こ。じ。よ。
忽然。う。く。お。の。大。河。と。ス。く。小。す。あ。う。
念。言。す。く。南。小。い。く。り。や。中。間。一
川。の。白。道。び。ス。く。と。え。く。狭。少。セ。川
れ。岸。う。し。ま。す。か。く。し。を。と。く。
と。移。く。つ。と。今。日。行。く。終。く。先。せ。ま。く
み。や。ゆ。く。通。し。だ。り。群。賊。

恩歎アハや。あくまでうりてせし南ナガつもりと
一久ニシテハ。恩歎毒玉アラトウタチをちひきうりて。
われすじゆゆと西小シマツコトじゆゆとま
川緑カワグリアミモク。うだりぬふ。下そ疋シナ
と。二川の河カワ。うちわアラハ。この時タキ
幸アラタ之ノアラサフ。ソラ恩念アラシ。くゆううと
死アラヒ。又アラヒ。モモモアラヒ。一種アラヒ。モモモアラヒ
ぬくし。ものと。つまし。ゆゆ。アラヒ。まく

つ赤アラカて。さに。じと。まか。しと。い。え
みうち。アラカ。く。ゆ。アラカ。と。い。と。い
と。が。す。時。アラカ。東。の岸。小。アラカ。ま。い。と。の。と
じ。り。急。アラカ。と。い。と。い。と。い。と。の。と
と。と。う。赤。て。ゆ。アラカ。ゆ。赤。の。難。アラカ。
住。アラカ。と。アラカ。赤。アラカ。と。西。アラカ。岸。アラカ。
足。アラカ。と。アラカ。と。アラカ。心。アラカ。

怯退心絶ハシナシ後アヒタシ一命イチメイ二命ニメイ三命サンメイ

群賊等ムツヅクシテとしてハシナシまよ通ハシナシの事ハシナシ

のみうふまくハシナシわくとハシナシ事ハシナシ

トモテハシナシ死ハシナシなん事ハシナシとハシナシ事ハシナシ

元ハシナシ魚ハシナシ心ハシナシ事ハシナシ人ハシナシ事ハシナシ

ハシナシハシナシが身ハシナシりさんとハシナシ直ハシナシめすとハシナシ道ハシナシとハシナシ命ハシナシ

命ハシナシをハシナシいにハシナシ復ハシナシ史ハシナシとハシナシぶつらハシナシ西ハシナシ岸ハシナシ

小ハシナシ心ハシナシりてハシナシアヒタシハシナシアヒタシハシナシ雞ハシナシとハシナシ喜ハシナシ

友をもじしとく。うしなひをまわす。う
もだよ。也。次にだよを合して、とよと東の
岸に下りて、ふたりこの婆婆れ大宅に下
り、群賊懲歎。ソリソリらしくまよひと
がりうる。元生の六根六識六塵五陰四大也。ふ
き宣迦の澤に下りて、すみやかに又あらそ
て、ゆきとれ善知識。小わらしきもや。水火の二河
ふもす。がりうる。元生の貪愛ハ水のトモ
腹患

と大のくちりいぬまち也中間の白道西
すこしも衆生の食贍煩惱の叶ひ
清淨の願往生の心がす也食贍の心
くゆすふんら水大れどせだく
也取れずくわきへゆく白道今とだ
ちえ水波川你よりみりはうだすと心
川流りむりく善心と深汎すと又大端
津経よ道ばやくの願煩惱の心がて
み人のゑれすとやがときて道とたづね
て直に西すとしこふとすふり釋迦尊
お城一塔ひくがら人をもとめりまし
いたば教法ありてまう御つ原さんと
五のとくだまちもあひゆ第一本

二命アリ小群賊等アリ返ツテソシノ剣解
行恩見人等ミシビニ見解ミシモセハ感
乱一不らしカアツテ家滅ブリテ退キア
ナダニシニ西ガ岸ノアタヒ小人アリテドウア
ニシモアラリ御所の取ルヒマニシニ酒
史にアラリ行のスニヒシモテ善友
アヒヌムクニコニシモアラリ前生イキ
ノキ死ニリシテ廣劫ノ輪迴一迷到

ニヨアツシ油トヒシ解脱アリテ
力主モ釋迦^{ヒヤ}發遣^{ハツサ}アリテ西方^{ヒシナガ}ア
絶^{ニヨリ}殊^{ニヨリ}地ノ悲^ヒム^シ你^シム^シハ^シテ
テニヨアヘン^シ信順^{ヒシヌ}アリテ水火^{ヒツカ}ニ河^カアリ
人^{ヒト}ノ命^{メイ}小^コ多^カアリ^シ之^ノ氣力^{キリ}道
小^コ素^シアリ^シハ^シテ^シ不^シ可^シム^シの如^ク
シ^シレ^シ半^ハとえて^シシ^シケ^シシ^シル
利^シ慶喜^シアリ^シシ^シモ^シナ^シ人^{ヒト}行^シ

者。終住坐卧乃至業。修する事。晝夜時
節。経句。問。問。川林。一ノ門りと。引

ありしと。かう。極了。に向。發願心。之。
ゆ。又。向。ニ。之。が。今。か。じ。ま。し。ありて。
大。也。を行。て。生。死。も。過。り。う。て。究。生。也。
教。化。す。經。向。ニ。な。く。之。心。そ。不。是。す。
化。行。之。成。で。て。以。半。身。の。願。行。
そ。小。成。て。之。じ。之。經。す。以。之。之。

お。う。り。行。半。が。ま。ん。ニ。已。上。善。學。乃。釋。
ノ。文。ナ。リ。

問。何。詮。法。經。の。中。也。一。心。不。亂。之。う。か。の。
う。し。ら。詮。法。佛。と。ま。し。時。餘。事。と。す。う。
也。不。い。う。也。か。ゆ。い。か。や。一。念。佛。弔。
え。經。佛。経。か。い。ま。を。ま。ん。ま。の。御。之。
も。一。念。往。生。み。が。り。く。人。ひ。き。こ。む。り。又。
い。の。う。の。不。り。經。期。之。餘。念。ナ。リ。

事は元史の往生す（ミサキ）
義は（ミサキ）

卷善導。この事と釋してれ経のひを
い三心と具足してのう。まことにす。
金剛のう。ゆく。いのう。うな。期。三心
のうち。一のこころ。ひの。孫。法。佛。れ。平。私
の文に。設我得佛。十方衆生。至心信樂。歡喜我
國乃至十念。若不生者。不取正覺。之。二の文

小もんこそと觀經よりすこもうれしゆ
内至誠心よりしり。信樂こそと深くす
行り欲生我國も廻向發願心よりしり。
此心よりて、いわう下うみへ期すて
心のと一心と。モととろんは眞空の
一一日二日乃至十聲。一聲小よりしに生
て。事とくそよひて。凡丈のへ。散乱
がくそ事のへ。ハテモ易行道をすすむ

事乃て。雙卷經の文。又。横截五惡經。
自然開闢。元窮極。易往而元人。之。事
ト事小ゆ。アシ。紀事。アシ。紀事。アシ。
アシ。却。或。以。テ。シ。モ。ト。イ。シ。モ。ハ。の。リ。又
ノ。シ。モ。タ。ダ。ハ。行。人。ハ。ト。ナ。リ。又。ミ。ハ。
奉願。小。方。至。十。念。ニ。ア。就。成。就。ア。文。ア。ミ。
念。モ。ア。ウ。ク。ア。ハ。念。ア。ハ。リ。ア。回。電
忙。モ。ア。リ。ア。國。ア。シ。モ。キ。ア。ト。ア。
シ。モ。ア。リ。ア。國。ア。シ。モ。キ。ア。ト。ア。
遙恩。ア。シ。モ。シ。ツ。ハ。シ。觀經。の。文。
又。遙。の。眾。人。ア。シ。モ。ト。ヤ。シ。セ。モ。ア。
人。ア。心。ア。リ。ア。向。ハ。信。心。ア。ト。ア。
シ。モ。シ。ツ。ア。シ。モ。雙。卷。經。の。文。又。當。來。之。
シ。モ。經。遙。滅。盡。我。ム。慈。悲。哀。愍。特。留。此。經。止。住。
百。歲。其。有。衆。生。值。此。經。者。隨。意。所。願。皆。可。得。
度。立。三。時。内。衆。生。モ。一。寶。ア。名。付。キ。半。
竹。り。う。く。の。聖。教。ハ。龍。宮。小。入。して。一。卷。

如來同心同時下の廣長の言相と
して阿彌陀三千大千世界下の廣長の言相と
す。この事を經半からて西へと久之
の後の廣長の言やんたら、何處にあ
りてせらじ所といひ經文釋文の如き
又大事と成一時とい。時ハ此謹明ありき。
法華と涅槃は一時多寶一佛謹明也。
般若と涅槃は一時六方四佛謹明也。

経より是の事と一目七日ハ念佛也。
く謹誠の事と大半が節用とこと
に事の内事に大事小事御前事もと
不發作參也。

問信心の事と大抵より行次第

也。

答四修と云ふ本とす。事と云ふ事と
長時修乃至四つ元餘修也。長時修之云々

慈恩の西方を汝に勧めりて之
小退歩なま也。善摩ハ、おらの不見と期
して移て中止せしニテ奉教惟也、
極樂の佛法僧寶小不見。汝不憶
念く。多聞と云と也。往生要集不
又要法不。恭敬惟也。不。五
行。一。有縁の聖人。二。三。有縁
の聖教。三。有縁の善知識。

四。同縁の伴。五。
三寶と。一。有縁の聖人。二。
三。有縁の行住坐卧。四。方と。五。有縁の
法。便利。五。西方小レムシテ。三。有縁の
像。教。三。有縁の。六。汝改佛の像
と。七。利。八。セモ。九。幼く。十。半。何
テ。十一。一。佛。二。善。蓬。十三。經文教。十四。
十五。十六。經院經。十七。立。色。十八。沙門。

ておつまむと久ん他とルにておもぬで上僧
お經の室のうち安置して六時より禮讃之
杏花と供養す。三月有縁の善知識
とおもふ。さて洋古の教経の人にあらが
り半由旬くり二つ。いはく教童三
親近供養アリ。別學のものと鶴て
おもふ。心紙にうそアリ。怪慢と云ふ
と衆ともう事。ここより仰くもくみてお

此生のうちに善知識となりておもぬ方
又歸す。幸とくらう。火宅小住
と退没。ありていて。こゝへ往く也。大害の
修道。それから。ゆくゆく。やがて西方に歸
然。又修進して方行す。いはく。これもうつ
移す。殊ほの淨國八道鬼の地。四双縁
れ。おもふ。やまと。ハ。不かく。業と修

す物也。身アラミテリテ獨葉
成セスニシテ。次ドモ。いより
て。汝ニ小行トナサセ。アマゾンタガ
ノ事。御事。御伴ノ善縁也。アヒ
たのミテ。アリナリ。立ト。寶城アヤマ
シ。繪像。本佛。宗。教旨。聖像。
菩薩破戒。アリナリ。心も。口も。身も。體も。
と生アリ事。シ本のミヌキモ。アヒ

アリ。小沒。アリ。小。アリ。事。アヒ
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
西。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。阿波。小。アリ。アリ。阿波。小。アリ。アリ。アリ。
心。絆。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

生死小川にて六道に駆馳し身
心せし所善縁りあひて殊の五丈
とくにゆき小佛恩を念へ報盡を期せ
て心に存する心相續て
餘業とゆき西元餘修之工事
ゆきりく極樂ゆく大く礼念す也
諸餘の行持は雜述せし所作の葉旨別
小念佛之一菩尊の法りゆくか

他鄉小わり日夜思惟すの如也
かへり久時して本國を行ひ心
恵事ゆきり事とらず事併えても
てに通りて道すり事とえて文母、親近
いゆき小歡娛す。行者。
又一過往因の煩惱小善心と壞乱せ
福智の珍財を以て散失して乞ひ
。

りけの名号と会うからりけ
が立の物の種類等ばかりで餘事
専修の三百五十九百五
種じよし雜修の五百中二
也雜縁の五百分之三也他
生の正行もさへしからず諸事と
凡く小道俗の解釈不同ゆく考観
也だんそりにち千六百五十九十

アレシヨリ雜修の五百中一小也
えくと少々善學の弟子釋迦
西方淨土業紙修せんじ物益修
不満半千ニ葉ナウ半以下
一切の諸願諸行を廢してすれ方へ
行一願と作せんと是修
向一切の善根の魔王へたりまことに

ルハムテ對治トシモ

卷魔界ニ小地ニ產生トシテ御す物
一切ノ行業ハ自力と爲シ也。念佛の行
者ハ方紙ノ眾惡生死ノ化丈ニ下ク。自力と
不のじ事以テキテ。深泥ノ願力也。
往生ノ事。小魔縁下リ。と。事也。
觀惠。と。人少。九境ノ魔事。也。
利。と。孫活ノ一事。小。大。魔事。也。
人清淨。大。ゆ。と。之。佛。と。不。同。也。

魔縁。大。生。念佛。大。無。身。也。也。
不。他。力。と。の。じ。小。大。也。有。丈。也。石。
大。私。也。也。方。里。大。海。と。て。ゆ。う
也。又。念佛。行。者。也。小。大。也。觀。音。
は。も。も。も。也。三十。也。菩薩。百。重。千
重。小。圍。護。念。一。也。小。也。も。と。も。也。
所。也。

向阿弥陀佛。合。す。小。大。也。也。也。也。

う・滅・ひ

畜一念ト・八十億劫の生死の衆ト・滅ヒ
ソニ又但圓佛名三菩薩名除元量劫生死之
罪ナムト作そフ

向念佛ニシムハ・佛の色相ト・念・ひ?
畜佛の色相光明ト・念ト・け・觀佛三昧也
報身セ念ト・同躰の佛性ト・觀ト・ハ・有テ
ミ心セ・ナム・ミ・無・境・果・小・ナ・次・善

牟セ・爲・ツ・相・セ・觀・セ・テ・キ・名・字・
稱・セ・前・生・セ・ウ・ツ・行・く・テ・觀・成・セ・
半・ツ・一・二・少・大・聖・ツ・レ・ル・也・
名・緒・名・セ・コ・リ・小・ナ・次・經・テ・ム・
シ・テ・キ・名・一・斗・十・方・小・ナ・シ・リ・ウ・ツ・
セ・ウ・又・本・願・文・セ・善・導・釋・テ・の・始・
我・成・佛・十・方・衆・生・願・生・找・國・稱・找・名・号・下・至
十・聲・末・我・願・力・若・不・生・者・不・取・正・覺・彼・佛・今

現在世成佛當知本誓重願不虛衆生稱念
必得往生之利益而得往生者
小往生者猶如淨土而得往生者
安樂淨土

師者法華真如實相平等妙理般若第一義空真言即身成佛一切乃聖教
心のまへさざでなりゆと
大胡太郎實秀一川を御通事第十二
行との便みに一川を御通事而

ふやく次ゆき行先て不審小河
ゑひんこ思候そひだ川你なほ
半弓の文りんあくまやくとひら
ひえすりてひわづれ京まいとひら
作時雨ふ沙浪りふくわ作乞な
半大方公佛とては生ひとすすり
うふう字號ひてひづれ一川を御
まうがりゆくと作三毛人すて津

小やうせりんすうの方へひひて
てだらううまの不審をんせん文
あくよしゆく角をもどりゆくうと
いふえとくのうんのすがくにゆく
うでえくのうんのすがくにゆく
うちくくとくのうんのすがくにゆく
中作んこねーいな
アは三心奥足一て満生すくすみの西本

アハ名同ひりとくまく時あはうか
トキアハんこ半く一くちりのひりとく
三心善厚のほんゆくがくわくとく半身色
アハ所をかうい所法せんん元初れ人
居きとくかん女人びんのとく異也ね強
ク心もとてひゆねとくゆくやふ満生す
せんこだりひと念佛もん人自然も異足
一ゆくいふくのとくひゆくとく

す。觀元量壽經小之にて作翻。今
竝生りて。かの如く。じまきん。称
ん。毛三種の心と。たうて。すふら。往生
す。何事。三三す。一。は至誠心。二。
も深心。三。小廻向。發願心。と。あ之心。と。眞を
ふ。えのハ。かく。のう。のう。じまきん。三。身
ノ。ノ。小善導和尚。ハ。心。ノ。ノ。ハ。身
外。小至誠心。と。云。真實。れん。真實。と。云

は。ハ。内。ハ。レ。ア。く。そ。外。ハ。ミ。ラ。ア。外
を。ミ。レ。ア。也。ナ。ウ。リ。觀。經。疏。小。釋。一。
ノ。ノ。外。小。賢。善。精。進。ハ。相。と。現。一。内。云
虚假。と。ハ。内。半。と。多。レ。シ。ツ。ヨ。大。釋。の
ハ。内。ミ。ナ。ウ。リ。一。外。小。ハ。外。に
善。人。れ。ト。ハ。ミ。ア。内。小。ハ。懈。怠。ハ。人。と
懷。キ。外。小。精。進。の。相。と。現。一。外。真。實。

うるやか中也外の内をわたりぬく
ふんのかくせし至誠心トキニがくろ小刀をひ
伏し.

ニヨ深心ヒシニとすがうちし深く信す
何事ナニとす信すうこよ小刀ヒサマツ
の煩惱カクノと奥オソシ一イチほの御ミコト御ミコトはくと
餘ヨリの善根ヨシニがんこぶくん充ヨシフあとりけの
大坐奉乳エラタモスル御ミコトの太懸タケの君ミコト

号ヨウとすたゞタツタツ一百年ヒヂヒヂより四百
年ヒヂヒヂより十二千年ヒヂヒヂより乃も三千年
いてとく行ハシマリすとく人生ヒジンとく行ハシマリす
伏ハラフてん内ナカニめくらして寂後サツゴ隠後ヒヅシの時ヒメと
解ハナクせすとく七日一百十聲ヒヂヒヂ一聲ヒヂ
てし下シタマツとくゆくと釋名ハシマリ念佛ハシマリの心ハラハラ
没宣モクセンして往生ヒヂヒヂと信ヒヂして乃も念ハラハラ
伏ハラフてん内ナカニ伏ハラフ深心ヒシニハラハラ念ハラハラす

ノ往生詔示ノ人奉祀の名号とゆりひす
應が代用小妄念のたうづだうき外餘
善ノすく有りいぢりても。ノウモロ
一そ。往生と不宣小なりて。また小奉祀と
うだつまし。善導ハ。まことに。未來れ行
者。このくじとれこく半と。かくその
類。と。のそえを。没立の。が。す。そ。じ。だ。う。
煩惱と具足して。而東と。は。う。善根と

此智解ならん。乞丈十聲。一聲も。ノ合
併小なりて。没立。一そ。往生を。む。め。り
と。く。ご。く。釋。一そ。能。ら。也。た。と。も。あ
く。く。り。け。室。の。中。小。光。滿。ら。そ。光。と。も。あ。る。
と。り。く。造。眾。の。乞。丈。念。併。して。往。生。す。上
半。ハ。う。半。と。信。と。う。く。の。様。ま。る。と。と
小。づ。り。く。一。会。と。下。う。も。う。か。ふ。わ。と。と
秀。さ。れ。ゆ。行。詔。後。仰。す。す。佛。さ。の。詔

我佛小なりゑん
時十方の衆生。つゝ名号とす。といふ一聲。
之にじて。百年よりて。十年
一聲。また。せん。小。つゝ。わく。あく。じま。と
名。つゝ。わく。の。小。く。一。せん。い。鳴。く。う
し。小。く。の。れ。じ。や。く。く。て。ゆ。く。ま。く
て。また。小。く。く。だ。り。鳴。く。か。く。一。く。く
名。号。づ。き。り。せ。ん。か。か。く。く。く。く。く。

三事と。又。釋迦。り。け。う。婆婆世尊。と。之
諸。く。一切。衆生。く。き。く。か。の。跡。迹。く。の。跡。と
え。く。会。佛。往。生。と。す。先。迹。く。又。六。方。恒。沙
諸。佛。如。く。廣。長。の。言。教。く。て。釋。迦。く
会。佛。て。往。生。と。く。之。は。波。宣。也。と。此
衆生。と。信。て。す。と。も。く。と。か。わ。く。と
す。と。余。許。の。い。く。く。ら。れ。一。佛。し。だ。り。く。と
味。同。心。小。證。誠。一。佛。く。そ。て。一。佛。經。所。仰。

けふきれと。釋迦。釋迦。うれの。
やあさうせば。すす先達。六方恒
沙。諸佛。はう。說の眞實。たゞ。說誠
。一。諸佛。小。う。つ。の。行。ま。文。か
れ。諸佛。小。う。い。元丈念佛。と。往生。教
す。ハ。の。佛。て。ま。う。と。う。り。が。り。だ。ほ
く。れ。印。と。現。て。の。佛。ま。う。現。と。ほ
き。く。と。公。佛。往。生。ま。う。よ。く。伝。へ

と。あ。ア。難。心。と。不。可。ア。次。び。ん。ア。菩。薩。
も。う。れ。の。経。り。ん。と。ア。ん。ア。羅。漢。碑。丈。寺
と。ア。釋。一。説。い。く。ひ。と。、ふ。い。ん。ア。近。來
の。れ。え。の。じ。し。ゆ。と。け。ん。ア。、
人。金。ア。と。と。善。導。和尚。ア。海。り。り。と。も
利。く。往。生。ア。道。び。と。ア。ん。事。も。う。か
き。く。い。菩。薩。ア。丈。ア。、れ。元。丈。小。う。ひ。く。よ。る
わ。阿。弥。陀。佛。の。化。身。ア。ま。ア。り。う。つ。を。觀。

ト。ひきくあります。一切衆生小大にて。先て
立定して。往生せし物。料小大りう先小
死丈の念じ。善導和尚といふは。是
也。はるか教。佛說。こそ。修。ひよひん
心。意迹の。心。現身。小念佛。三昧。え
て。ゆれ。す。津。石。法嚴。と。入。佛。小。じ。い。
ま。ち。り。そ。そ。ら。ひ。う。け。の。そ。そ。持
利。く。の。持。う。韻。共。也。本。地。を。不。り。も。主。迹。

を。だ。り。わ。う。か。と。く。あ。そ。伝。を。か。
う。と。ま。し。と。く。頬。櫻。の。こ。み。う。と。紅。葉。と。う。
久。多。面。障。の。う。め。う。だ。り。と。れ。と。沙。流。寺。だ。
久。南。無。阿。弥。陀。佛。と。と。う。じ。と。心。小。川。と。
没。宣。往。生。の。不。り。し。往。う。と。と。う。と。没。宣。の。
せ。や。う。て。深。心。と。は。が。う。く。と。せ。深。心。と。真。の。
往。ハ。没。宣。一。て。往。生。す。と。也。詮。ア。ミ。う。と。せ。
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

之にて。うそと。深心。はなれを
作なり。

三小回向發願心。又別の心。又是。
口前修の行業。一向小極樂。回向して往
生。汝。心。一。心。と。與。て。か
な。す。生生。一。心。一。心。と。與。て。か
生。せ。は。善。導。ハ。釋。一。法。也。と。真。實。の
へ。わ。り。て。急。絶。か。ら。す。さ。き。ぎ。く。字。乃。本。

願。と。う。り。と。小。深。心。け。る。念佛。也。
ゆ。と。い。難。ん。だ。く。う。も。や。く。ま。く。り。て。内。く
の。事。れ。ん。な。く。ハ。至。誠。心。と。う。ん。り。今。
ま。と。い。二。心。と。真。一。て。ゆ。う。る。難。ん。う。
ゆ。と。極。樂。ト。じ。く。ん。こ。で。ん。り。く。回。向。發。
願。ん。け。り。ト。三。心。と。い。わ。く。時。ふ。く。の
こ。く。別。か。ら。信。だ。き。と。も。詮。す。ふ。く。の
と。真。實。の。ん。と。行。て。よ。く。お。れ。り。位。

一て往生代称ふさうを三の具足のふさ
ゆれとふしりのふさと具足でも
一てはう往生りの大事とふさむ
ゆくやうふせふ又と取事あひ也
ニモタマフに心志種称ハサテ文と具
足せぬ心志ハムヌセナ内若とふさ
種ねとれ二のふとふさま川てひえく
くさりゆくし人のたかひもれゆ

小真ちねとひしわくまの少ひと
トモシ。小甲斐なき人だくとこれ
れ牛とすとひくら。念佛中もうり
少く。生まて、里空。事ばじく
トは、金き。事少く。うし難く。事
称と。三と。眞一。う人少く。うり
少く。事少く。事少く。也。又ア。了
念佛中。う人の。臨終。内。事。事。事。

「
うる紀念佛者一人、
本願生を位せどもや
小往生と云ふ人也こそ作らんと
仰うし色も三つと異せざりゆ
本願生を行ふく往生也と云ふ半身色也
一説に半身也と云ふが云ふ往生
大乗の半身也と云ふ先と半身也

死へ作り一と一室徃生^{アラシタ}ト一と黒
死ねと御^{ミサハ}深心^{シカク}一徃生^{アラシタ}セ
ノ心^{ハシハ}一室^{アラシタ}徃生^{アラシタ}トヨリ死
テニキ事^{アラシタ}モテアラシタ徃生^{アラシタ}
ナリテ御^{ミサハ}の不^{アラシタ}トヨリ次^{アラシタ}
念佛^{アラシタ}人^{アラシタ}の口^{アラシタ}事^{アラシタ}方^{アラシタ}
作^{アラシタ}也^{アラシタ}少^{アラシタ}はけの未^{アラシタ}迎^{アラシタ}
半^{アラシタ}行^{アラシタ}者^{アラシタ}條^{アラシタ}念^{アラシタ}の不^{アラシタ}

とすとくねんされりゆくゆきの念の念
佛やめん時小がくじはじらはくへとせ
くらべては佛の軌とし伝せと經文
くねんかくひやくはくは稱讚淨土經も
りけ意血とりて加^{タス}身^{タヌ}心^{タヌ}也
くらべらはくはくしてくはくの時^{タス}
くらべらはくはくはくはくはくはくはく
をくはくはくはくはくはくはくはくはく
をくはくはくはくはくはくはくはくはく
をくはくはくはくはくはくはくはくはく
をくはくはくはくはくはくはくはくはく

迎一経とえくそくゆきりく行者正念に往
すくやと義少くひ也^{トシク}少くひ^{トシク}念佛
びしきくくだりいわく^{トシク}トシク^{トシク}ゆきりく
正念をのめがく人たんこのいはゆよ^{トシク}僻
胤^{トシク}いはゆく事ゆくとくはくはくはく
頬^{トシク}とほせん人^{トシク}くゆて^{トシク}ゆくはくはく
ゑくはくはくはくはくはくはくはくはく
会佛をハ^{トシク}くとむと至^{トシク}てよ^{トシク}まく

おへんかむけの本領も。縁縁の時会ひ
トさん人をのぞ迎へんといひて待ひて。ま
縁縁の念佛少く。往生すと。中華有比往生
多也。你の念佛少く。アサリ。て。毛
え小まきばかり。アサリ。通人。れどり。
死なぬす。時より。善知識のす。先
小ちく念佛。徃生すと。觀經、
も。うして。おとづれ行者。ハ。縁縁の沙

おへんかむけの本領も。縁縁の時会ひ
トさん人をのぞ迎へんといひて待ひて。ま
縁縁の念佛少く。往生すと。中華有比往生
多也。你の念佛少く。アサリ。て。毛
え小まきばかり。アサリ。通人。れどり。
死なぬす。時より。善知識のす。先
小ちく念佛。徃生すと。觀經、
も。うして。おとづれ行者。ハ。縁縁の沙

三、さくみうつしハ餘宗ノムトテモ
經行トウリ。以テ先ヤモニシニ收メ
僻事ニヤス。後モ從わリ。トモシヒト
一、淨石宗ハ心善學ノ乃釋小往生大教
不々小行うちニ川ミモニム正行ニム離
行也。トク小正行ニシテ。レシテ。行也。
トク小讀誦正行ニシテ。ハ元量壽經觀
經阿孫陀經壽ノ三部經。讀誦す。つ
少稱名正行ニシテ。南無阿孫陀佛。ヨリ
川々小讚嘆供養正行ニシテ。ハ孫陀
と讀口。サセ。トテ。モテ。レシテ。行。テ。立
種ノ正行ニリ。讀嘆之供養。二川の
行。テ。六種。正行。ニ。也。正行付

三、さくみうつしハ餘宗ノムトテモ
經行トウリ。以テ先ヤモニシニ收メ
僻事ニヤス。後モ從わリ。トモシヒト
一、淨石宗ハ心善學ノ乃釋小往生大教
不々小行うちニ川ミモニム正行ニム離
行也。トク小正行ニシテ。レシテ。行也。
トク小讀誦正行ニシテ。ハ元量壽經觀
經阿孫陀經壽ノ三部經。讀誦す。つ
少稱名正行ニシテ。南無阿孫陀佛。ヨリ
川々小讚嘆供養正行ニシテ。ハ孫陀
と讀口。サセ。トテ。モテ。レシテ。行。テ。立
種ノ正行ニリ。讀嘆之供養。二川の
行。テ。六種。正行。ニ。也。正行付

て。まことに二川を一歩。一心少しくほほ改め
名号。併しつゝと。もううて。立石建卧塗夜小
寺。すくま。今。小さくうつ物。ざしと
正室の業。こなづか。のむけ。本願。頬す
の種。こゆて。会佛。りそぬ。うく。やら
き。は生の業。こ立て。うり。礼誦。事。びうと
ひがうと。助業。こすく。会佛。りそ
礼誦。や。讀誦。や。讀。嘆。供養。たん。が。が。会

佛を。だらう。業。こよて。ひそ。て。この正室業。
この助業。みの。こよそ。それ。うり。く。の。
業。と。あ。雜行。こり。く。布。絶持戒。忍辱精
進。奇の六度。方。引。し。法華經。と。じる。真言
を。も。だ。た。う。の。こ。ねり。う。く。行。と。
これ。ふと。く。雜行。こ。り。く。心の。心。行。と。
て。ひ。專修。の。行者。こ。い。の。うれ。雜行。と。飛
て。ひ。雜修。行。行者。こ。い。の。うれ。雜行。と。飛

得失と判する。行はれ正行と修す。かく
以稀^シがのく親近^ニて念憶^シ。朝^ヒの
らの雑行^シと行^シてかくは稀^シ。間断^シ。廻^カ
してじまく事^シ。まづ^シ。まづ^シ。まづ^シ。
雜^サの行^シ。まづ^シ。まづ^シ。極樂^シ。小^シ。見^シ。
ナ^シ又專修^シの如^シ半人半人^シ。まづ^シ。
百人八百人^シ。まづ^シ。まづ^シ。まづ^シ。
外^アの雑縁^シ。まづ^シ。正念^シ。まづ^シ。正念^シ。
まづ^シ。まづ^シ。まづ^シ。まづ^シ。

のぞ取^シ。あひ叶^シ。ゆ^シ。釋迦^シ。今^シに
そ^シ。ゆ^シ。雜行^シ。八百人^シ。中^シ。
三人^シ。し千人^シ。中^シ。四立人^シ。まづ^シ。まづ^シ。
それゆ^シ。雜縁^シ。苦勲^シ。正念^シ。方^シ
種^シ。孫後^シ。お^シ。相應^シ。まづ^シ。まづ^シ。釋迦^シ
迦^シ。小^シ。まづ^シ。ゆ^シ。ゆ^シ。係念^シ。相續^シ
せ^シ。ゆ^シ。憶念^シ。間断^シ。まづ^シ。ゆ^シ。ゆ^シ。
往生^シ。業^シ。他^シ。往生^シ。まづ^シ。ゆ^シ。

じ。釋。て。し。か。し。ハ。善。導。和。尚。ト。
信。て。淨。云。宗。小。、。う。ん。人。、。一。向。み。正。行。と。修。を
命。と。す。事。じ。そ。う。く。れ。を。急。ハ。善。導。
の。金。く。ば。う。し。そ。餘。行。と。く。ま。ん。を。與。之。
人。だ。の。く。り。い。く。後。ろ。と。そ。う。先。を。し
が。う。行。く。は。う。や。う。善。導。の。ん。小
事。す。ら。修。す。行。く。と。だ。け。す。う。沿。の
れ。修。び。て。一。し。く。と。く。て。後。ゆ。と。や

事。く。く。と。く。す。う。修。く。正。行。く。う。く。
り。代。物。く。く。あ。か。く。す。く。と。失。物。く。の。雜。行。
と。か。ん。事。ハ。海。く。く。と。く。く。
又。佛。く。く。人。く。く。念。佛。と。往。生。を。向。
一。て。善。す。く。ハ。法。華。經。す。く。修。ま。ん。人。ハ。事。
う。く。く。と。く。す。け。ハ。モ。
お。く。く。と。く。作。ハ。先。ま。の。く。く。小。く。ね。く。

ひうねさうりれ人のうへくをやもし半
とふ耳にうへんをめうそす一節す善導
の心すらふうくじくしまますトセ一宣
徃生す念佛の數遍とよしんとむか
先王の事あくひはあそいは生のまうき
そぞくゆくも不宣の往生をばくしてじう
と一宣徃生れ正行と徃すと行れとめう
徃く不宣れ徃生れ事あくとん半宣六換

光がる事あやくのえをほてて事あ
せたへつゝとひ雜行ばくとん人ふく
生をもくなんこす半かくひのひへい
とくと餘行の人たりうとまくとくとく
人びうとくとくとくとくとくとくとく
多ひとくとくとくとくとくとくとくとく
しゆうてうふいゆふいのゆうくとくとく
わう徃人わうのう行ひうとくとく

ね言ふ事あつて是文をす。すよりこ
ノ門小ちりて進みてす。レヒハアラ
モトモセ。後之の御事。シテシテ
角川人ひしも。論一わを筆葉
行方。近事。モハシ。ナニシテ
モ聖アマリ。モハシ。ナニシテ
ナニシテ。ナニシテ。ナニシテ
殿原アムノ。内牙少。二宣。徳事。モハシ。
ナニシテ。ナニシテ。ナニシテ

三月十四日

源堂

黒谷上人語燈錄卷第十三

